

那賀川水系河川整備計画（那賀川流域住民の意見を聴く会）阿南市第一会場
議 事 要 旨

日 時：平成18年12月2日（土）13：30～16：40

場 所：阿南市市民会館3F大会議室

参 加 者：45名

議事要旨：以下のとおり

【住民Aさん】

国が進めている一級河川の治水安全度の目標と現在の那賀川の治水安全度はいくらか。今回の計画が進められて実行されると治水安全度はいくらになるのか。

現状の治水安全度1/3～1/4から1/7になると説明があったが、1/7になれば、昨年の大洪水がどのような状況になるのか、シミュレーション結果があればお聞きしたい。

山腹崩壊における流入土砂について、治山森林整備について、どこが管轄するのか。また、国土交通省とどう連携をするのか。

治水安全度1/30～1/40は、国が河川整備基本方針で目標とする1/100と比べると非常に心配であり、河川整備計画の中でダムも検討の視野に入れてはどうか。

【事務局】

治水計画の基本的な考え方である河川整備基本方針は、100年に1度の洪水に対応するものである。今回の河川整備計画で直轄管理区間において堤防を整備し、樹木を切り、河道を掘削し、8,500m³/sを流すことができるようになれば、治水安全度は概ね1/30～1/40ぐらいになる。現在、那賀川の治水安全度は評価の場所により違い、加茂地区では1/2～1/3、堤防のあるところでも流下能力の小さいところでは8,000m³/s弱であり治水安全度は1/30～1/40より少し小さい値になる。

治水について、H17洪水は、史上最大の洪水であったため、治水安全度が1/7になったとしてもダムはパンク（枯渇）するシミュレーション結果となっている。ただし、ダムから補給できない状況となるが、現状よりダムがパンク（枯渇）する日数は若干短くなる。

森林の話は、流域がどのようなになっているか、山がどのようなになっているかということが非常に大きな問題であり、水を蓄えられる森林があればよいと考えている。これからは、徳島県とともに、地域の方々と森林をどのように守っていくのか、一緒に考えて行動していきたい。

【住民Bさん】

高齢者にとっては、冊子やスライドを交互に見ながら説明を聞くには、説明が早すぎて内容を理解しにくかった。

加茂谷地域での説明会をしていただきたい。加茂谷地域の住民は那賀川河川整備計画について非常に興味を持っている。

森林整備計画では「とくしま絆の森事業」での植林をしたが、治水上、また環境面においても非常に良いことであり、県の方でも森林対策に力を入れて欲しい。

ダム上流の土砂除去の方法は、ダンプトラック運搬では、経路の住民に迷惑がかかることになる。また、上流から流れ込んでくる量の1/3にも満たない量しか取り除くこと

ができない。排砂バイパスによって洪水で下流へ流すことを実施してはどうか。長安口ダムから日野谷発電所までの区間は、以前よりも5～6m深く掘れているところがあり、今堆積している砂レキを、その場所に入れればいいのではないか。長安口ダムから日野谷発電所の河床が下がっているところにおいて、南海・東南海地震で両岸のどこかが崩れて被災することはないか心配である。高磯山崩壊と同じことにならないようお願いしたい。

【事務局】

現在、深瀬地区には、堤防整備の説明で伺っている。加茂地区も今すぐにはではないが今後検討したい。

森林整備について、河川を考える上で森林の大切さは理解しているので、県の関係部局と連携を図っていきたい。

長安口ダムの濁り対策については、選択取水設備を設置することにより濁っている期間を短縮できると考えている。

長安口ダム貯水池上流で土砂を除去し、ダム下流への還元や、残りの一部の有効活用や埋め立て等を行うことで、貯水池の中へ入らないようにする対策を考えている。排砂バイパスについては、いろいろな課題もあり、引き続き検討を行っていく。まずは、ダンプ等で運搬する方法を当整備計画の中では実施したいと考えている。

徳島県では、長安口ダム上流で土砂を掘削し、ダム下流河川へ一部投入するなど、試行的に実施している。

【住民Cさん】

2～3年前、那賀川橋上流岩脇の堤防に坂路を造ってもらい感謝している。

シャッター（陸閘）の鍵は誰が持っているのか。表面は真鍮だが中は鉄で錆びる。水防時に鍵が錆びて動かなくなることがあることを知っているのか。

堤防工事の時に玉石を除去して新たに積みなおし、コンクリートで詰め込んでいるが、裏に入れた土は突き固めていないのではないか。

河川工事について優しさを持ってほしい。例えば、河川敷の樹木伐採について、どのくらい流れを阻害するのか分かって実施しているのか、十分研究の結果切られているのか。

ここ2～3年で笹原を切ったため、ウグイス等の鳥が1匹もいなくなった。

【事務局】

陸閘の鍵是那賀川河川事務所で管理し、陸閘についても管理・点検している。鍵についても出水期前など使えるかどうか点検し、確認している。

護岸の裏には一般的に砕石等を入れると思うが、資料等確認したい。

那賀川橋上下流の樹木伐採については、樹木繁茂により、対岸の川岸の深掘れが発生しており、洗掘防止のために実施している。また、流下能力の計算をして、不足するようなどころでは樹木伐採を実施している。

【住民Dさん】

素案には、上流での新設ダムの計画はない。放流ゲートの新設など多大な費用をかけるのなら、長安口ダムの下流400～500mに新設ダムを造ればどうだろうか。新設ダムなら、ダムの改造や排砂バイパスなどを計画的に作れるのではないか。

【事務局】

新しいダムについては、事業費と時間もかかるので、今たちまちやらなくてはいけな

い、治水・利水に唯一の機能を果たす長安口ダムを有効に活用していくことを考えている。

【住民Eさん】

素案P127。畑田川の流域図の記載がおかしいのではないか。大野町では畑田川と菱川があり、菱川については浸水被害が甚大であるので、是非、整備計画に書き入れてほしい。

水質の悪化についても岡川を中心に広域的に話し合っ、早急に検討していただきたい。

【事務局】

素案P127の畑田川の流域図は、岡川の合流点に集まってくる流域ということで記載してある。

菱川については、県管理でなく、阿南市が管理する準用河川と思われるので、調べて、市に相談する。

水質については、河川だけでよくなるものではない。阿南市が下水道事業などを実施中であり、また市街化調整区域では合併浄化槽の設置が進められており、改善されていくと思われる。

【住民Fさん】

長安口ダムの有効活用は、大いなる幻影である。排砂バイパスをつけないと、土砂流入によりダムが土砂で満杯になり、容赦なく襲ってくる濁水に対応できず、機能しなくなる心配がある。

地元の企業に「新しいダムを造ってほしい」と言って欲しいが、今は企業が地下水を使うことを考えており、我々の大事な井戸水が出なくなることを住民が心配している。国土交通省も姿勢として整備計画には新規ダム建設を入れてほしい。

【事務局】

新しいダムについては、相当長い時間がかかる。今たちまちやらなくてはいけない、治水・利水に唯一の機能を果たす長安口ダムを有効に活用していくことをまずは考えている。貯水池の容量は、広く河川のためになるような方向で使い、かつ、上流部での土砂排除を行い、これ以上堆砂を増加させないなど、無駄のない様な方向を目指している。堆砂問題で困っているダムは全国にもたくさんある。排砂バイパスについては、検討が始まったばかりであり、我々も研究課題として今後も検討を進めていきたい。

企業の地下水利用については、H17大濁水を受けて、県で濁水時の工業用水被害軽減策として事業化している。あくまでも濁水時の緊急的な対応を目的とするものであり、上水道への影響などが出ないように実施していく考えである。

【住民Gさん】

長安口ダムの将来の堆砂容量の考え方・貯水池容量配分について、教えてほしい。

川づくりについて、ハード面だけでなく、ソフト面についても一緒にやってもらいたい。

【事務局】

河川整備計画での堆砂容量としては、既計画の計画堆砂容量内にまだ124.5万 m^3 空容量

があり、また、将来、洪水とともに流入してくる粒径の小さい土砂が貯水池の中に沈殿する量としての120万 m^3 と併せて、今後堆砂する容量を244.5万 m^3 と計画している。底水容量は、従来使っていなかった底部放流管を改造することにより、下流の水利用及び河川を維持するために必要な容量として使えるようにする。従来は、発電が主体で下流に必要な水が放流されていたが、河川整備計画では、発電を主目的とするのではなく、下流が必要とする水を放流することを主目的にしている。川づくりのソフト対策は、地域の方々といっしょになって進めていきたい。

【住民Hさん】

加茂谷地域での説明会だけでなく、那賀川流域におけるすべての地域で説明会を開催してほしい。

那賀川水系の現状と課題について、那賀川流域住民に分かるような説明をしてほしい。「今後に向けて」の説明で、具体的に何をどう進めていくのか理解できなかった。計画書に基づき実施していくには、地域住民と行政が協調していかなければならない。緊急に必要と思われる事業について、優先順位をつけて書けないか。

【事務局】

地域での説明会開催については、今後、流域住民説明会が3回あるので、まずはこれに参加してほしい。河川整備計画の内容については、事業化の際に、その都度、該当地区での説明会を開催していく予定である。

説明に当たっては、できるだけわかりやすい言葉で説明できるよう勉強していきたい。「今後に向けて」については、現時点では具体的に書けないが、本当に必要性があり今後考えていかなければならないことを記載している。河川整備計画は、30年後どうするかではなく、明日から30年間どうしていくかを記載している。また、整備計画策定後は30年間変えないのではなく、必要に応じた計画の見直しも行っていく。素案P91。無堤地区の堤防整備、全川的な治水効果が期待される長安口ダム改造などの整備を優先的に進めていくことを考えており、地域の安全安心を目指して実施していきたい。